**炉のある建物の跡**

この実物大の再現写真の下には、2007年から2009年にかけての発掘調査中に発見された、大きな炉を持つ木造の建物の遺構があります。六本の木の円柱が基礎石を使わず地面に直接埋め込まれており、建物が簡単で機能的な造りだったことを示唆しています。炉の内部は焼け焦げていて、また、炭化した米、小麦、粟の粒が見つかっていることから、この建物が調理に使用されたことが分かります。城内には他の調理場がないため、ここで食事が用意され、王をはじめとする人々に出されていた可能性があります。この遺構で発見された炭化した穀物の年代を測定した結果、この炉は14世紀後半から15世紀前半まで使用されていたことが判明しました。この建物は、遺跡保護のため、発掘調査完了後に埋め戻されました。